０９／０２／１５　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：救われた者への神の祝福４
聖書箇所：ローマ人への手紙　５章４－５節

今朝も再びローマ人への手紙５章４節から見て行きましょう。
どうすればどのような患難、問題の中にあっても、信仰ゆえに経験する様々な困難の中にあっても喜ぶことができるのか、それがパウロが私たちに教え続けていることです。確かに、このような信仰の勇者たちは私たちが経験したことがないような困難の中で喜びをもって生きていました。そこには必ずその秘訣があるのです。私たちも彼らと同じように主にあって歩むことができるのです。そのことをパウロは教えてくれました。５：３－４節で患難が何のために与えられるのか、患難の目的を覚えなければいけないということを見ました。何のために患難が与えられており、何のために今私たちは困難に直面しているのでしょう？もし、罪が原因なら、それを悔い改めて正しく歩むことです。ここで言われていることはそれではなく、あなたが主とともに歩んでいるときに経験する困難のことです。確かに、様々な困難、悲しみがあります。痛みがあります。けれども、少なくとも、私たちが主にあって確信をもって言えることは、そこには神の完全な目的、計画があるということです。そのことを私たちはすでにパウロのことばを通して学んで来ました。その目的とは何だったでしょう？なぜ、神は私たちにそのような困難、苦しみを与えるのでしょう？それは私たちの信仰の成長のためだったと言います。あなたの信仰が成長するために、神は敢えて困難をお与えになるということを見て来たのです。
そして、前回、私たちはその成長の過程を見て来ました。患難を通してどのように成長して行くのか？困難を通してどのように信仰が成長して行くのか？その過程を見たのです。パウロは言いました。「患難が忍耐を生み出す」と、つまり、「患難を通して信仰が強められて行く」とそのように教えたのです。そして、二つ目に「忍耐が練られた品性を生み出す」と言いました。大変な苦しみ、問題の中でも、しっかり主を見上げて主のみことばに信頼して、そして、主の最善を信じて前に向かって前進し続けて行くなら、神はあなたを変えて行ってくれると言うのです。どのようにしてでしょう？主イエス・キリストに似た者へと日々あなたを変えて行かれるのです。それが「忍耐が練られた品性を生み出して行く」ということです。あなたは日々主イエス・キリストに似た者へと変えられ続けて行くということを教えてくれたのです。それだけでもすばらしい約束です。神は私たちを信仰者として変えて行こうとする、成長させようとしてくださっているのです。なぜなら、私たちが成長することによって、私たちが造られ、救われ、生かされている目的である神の栄光を現わすことを果たす者へとなって行くからです。三つ目に、パウロが私たちに教えていること、それを今日見て行きます。

☆患難による信仰成長の過程
１．忍耐を生み出す
２．忍耐が練られた品性を生み出す
３．練られた品性が希望を生み出す　　４節

４節の後半に**「練られた品性が希望生み出すと知っているからです。」**とあります。つまり、神は私たち信仰者をどのように変えて行かれるのか、どのように成長させてくださるのか、それは、どのような困難、苦しみがあっても、その中にあって希望をもって今日を生きる者へとしてくださる、どんな時でも希望をもって生きる信仰者に神はあなたを変えて行ってくれるということです。希望のない信仰者は本当に悲しいものです。希望を失ってしまった人は本当に喜びがなくなってしまいます。感謝がなくなってしまいます。その口から賛美がなくなってしまいます。そして、喜びや感謝と全く違うものが心から口から出て来ます。不満や不平や怒りなどです。この５章２節でパウロが教えてくれたことに戻って見ましょう。２節**「またキリストによって、いま私たちの立っているこの恵みに信仰によって導き入れられた私たちは、神の栄光を望んで大いに喜んでいます。」**、憶えておられますか？神が私たち信仰者に与えてくださったすばらしい祝福、その一つは「永遠」、天国でした。私たちは愛する主にお会いすることが出来るのです。このことこそ、私たち信仰者にとっては最も待ち遠しい瞬間なのです。ですから、私たち信仰者はその日を待ち望みながら、この愛する主にお会いできることを待ち望みながら生きる者たちなのです。パウロが言っていることは、あなたの信仰が成長することによってあなたはますますこの栄光のからだをいただくときを待望しながら生きる者になって行くということです。つまり、希望をもって今日を生きる信仰者となって行くというのです。
そこで、私たちが考えなければいけないこと、自分自身に問いかけてみなければいけないことは、この新しい日、今日というこの日に、主にお会いすることを待ち望みながら生きているかどうかというこ

とです。今日、イエスにお会いすることをあなたは待望して生きておられますか？なぜ、今そのことを話しているのかというと、それがクリスチャンの特徴だからです。私たち、罪から救われ神の恵みよって救われた一人ひとりのその生まれ変わって新しくされた特徴は、主にお会いするその日を待望しながら生きるということです。パウロはテトスへの手紙に中で２：１１－１２**「というのは、すべての人を救う神の恵みが現われ、:12 私たちに、不敬虔とこの世の欲とを捨て、この時代にあって、慎み深く、正しく、敬虔に生活し、」**と、神の恵みによって救われた私たちは、かつての罪の中を喜んで歩み罪を愛して来た生活に終止符を打って、神に喜ばれる生き方によって神に栄光を帰そうとする、そのような者へと生まれ変わるということを言った後、１３節**「祝福された望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるキリスト・イエスの栄光ある現われを待ち望むようにと教えさとしたからです。」**と、毎日の生活において「神の栄光を現わすために生きる」、そのような人に生まれ変わった、それがクリスチャンだと言い、同時に、クリスチャンはイエス・キリストにお会いするその日を待ち望みながら生きる者、それがクリスチャンだと言っています。

皆さん、私たちが覚えなければいけないことは、神はそのようにして私たちを生まれ変わらせてくださり、そのように変え続けてくださっているということです。ですから、私たちの歩みにおいて、どこかで今私たちが見て来た神が喜んでくださるような、神の栄光を現わすような生き方をしていなければ問題があると言えます。もし、私たち信仰者がイエス・キリストにお会いする日を待望していないとするなら、どこかに問題があるのです。イエスはあのオリーブ山の上で二種類の人たちがいることを弟子たちに教えられました。マタイの福音書２４－２５章に出て来ます。２４：４５－５１**「主人から、その家のしもべたちを任されて、食事時には彼らに食事をきちんと与えるような忠実な思慮深いしもべとは、いったいだれでしょうか。:46 主人が帰って来たときに、そのようにしているのを見られるしもべは幸いです。:47 まことに、あなたがたに告げます。その主人は彼に自分の全財産を任せるようになります。:48 ところが、それが悪いしもべで、『主人はまだまだ帰るまい。』と心の中で思い、:49 その仲間を打ちたたき、酒飲みたちと飲んだり食べたりし始めていると、:50 そのしもべの主人は、思いがけない日の思わぬ時間に帰って来ます。」**、二種類のしもべがいるということです。悪いしもべは主人はまだ帰って来ないと思って好き放題をしています。この悪いしもべは救われていない人であるというその根拠は次の５１節に書かれています。**「そして、彼をきびしく罰して、その報いを偽善者たちと同じにするに違いありません。しもべはそこで泣いて歯ぎしりするのです。」**、天国の話ではありません。そのように自分が誤った選択をして、いや、正しい選択をしなかった自分のその罪に対して非常に厳しいさばきがあるということです。では、片方の忠実な思慮深いしもべとはだれでしょう？救われた人たちのことです。この人たちはどのような特徴があるのでしょう？主人が帰って来ることを待っているのです。主人にお会いすることを待ちながら備えをしているのです。つまり、救われている人はイエスが今日お帰りになるかもしれないから、今日主にお会いする備えをしている人です。イエスが話された**「忠実な思慮深いしもべ」**とは主に対して忠実で賢いしもべです。２５章には十人の娘の話が出て来ます。賢い娘と愚かな娘のことです。同じように、賢い娘は主の前に正しい選択をし、そして、救いに至ったゆえに、主が帰って来られるのを待っていると言います。備えができているのです。ですから、イエスのおことばを見ても、そして、今パウロのことばを見ても、共通していることは、当然のことですが、救われた人の特徴は「主にお会いする日を待ち望みながら今日生きている人」です。イエスにお会いする日を待ち望みながら、その日を待望しながら生きている者たちです。

けれども、このように忠実な信仰者には様々な患難があるのです。いろいろな苦しみが伴います。でも、その中にあっても信仰者は喜びと希望をもって前進することが出来るのです。マタイの福音書にはイエスが山上の説教の中で話されたこのようなことが書かれています。５：１０－１２**「義のために迫害されている者は幸いです。」**、「罪のために迫害されている者」とは言っていません。**「義のために」**、すなわち、神に忠実に歩んで行こうとするその信仰のゆえに迫害されている人たちは幸いですと言います。続いて、**「天の御国はその人のものだからです。:11 わたしのために、ののしられたり、迫害されたり、また、ありもしないことで悪口雑言を言われたりするとき、あなたがたは幸いです。:12 喜びなさい。喜びおどりなさい。天においてあなたがたの報いは大きいのだから。あなたがたより前に来た預言者たちも、そのように迫害されました。」**、イエスが言われたとおり患難は必ずやって来ます。信仰者として生きて行くことは大変です。しかし、そのすべての患難の背後には私たちを愛してくださっている神の完全な目的があるのです。患難を通して、あなたの信仰が成長し、あなたがますますこの主の栄光を現わす者として変えられて行くためです。そして、後には神はすばらしい祝福を約束してくださっているのです。信仰者として主に忠実に歩んで行く、それゆえに、あなたが様々な迫害を経験しているとして、その中にあってもしっかり主を見上げて歩んで行くなら、その力は主が助け与えてくれるのです。

あなたは「私の力でそのような問題に勝利できる！」と言われますか？「出来ません！」。そのことはすでに私たちの経験が証明しています。しかし、私たちが主を信頼し主を見上げ、そして、主に自らの

弱さを告白して、主の助けをいただきながら歩んで行くとき、天に上がったそのときに神はあなたの信仰に対して相応しい報いを与えてくれるのです。イエスが言われたことは「しっかりと先を見て今日を生きなさい。しっかり先を見て与えられたこの日を生きて行きなさい。確かに、主を疑いたくなること、主に対する信頼がぐらつくことがあったとしも、しっかり主を見て歩んで生きなさい。」ということです。箴言３：５－６には**「心を尽くして主に拠り頼め。自分の悟りにたよるな。:6 あなたの行く所どこにおいても、主を認めよ。そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」**とあります。このみことばが教えていることが二つあります。一つは、自分自身ではなく主に信頼を置きなさいということです。**「主に拠り頼め」**、あなたの悟り、あなたの考え、あなたの思い、そのようなものに頼るのではなく、どんなときにも主に頼れ、主に信頼を置きなさいと言います。二つ目は、その信頼は心からのものでなければならないということです。自分のすべてをささげて従順に歩み続けて行くように、それがあなたの責任だと言うのです。ですから、半分だけ、少しだけ神を信頼しましょうと言うのではなく、「神さま、私はあなたを信頼します、あなたは神だから、あなたの約束が記されてあるから私はあなたを信頼します。そして、私は毎日の生活においてしっかりあなたを見て、あなたに信頼を置いて歩んで行きたい。ですから、神さま、どうぞ私を助けてください。そのように歩んで行くことが出来るように。」と、もし、あなたがそのように歩んで行くなら、みことばはこのように教えるのです。**「そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」**と。まっすぐな道の裏には間違いなく曲がった道が存在します。曲がった道とは罪の道です。神の前に正しく歩もうとしない、そのような罪の道からあなたを守ってくださり、あなたが正しく主に喜ばれ、主の栄光を現わす、永遠に価値のある、そのような生き方を歩んで行けるように神は助けてくれると言うのです。

旧約聖書の教えを見ても新約聖書の教えを見ても、神がいつも私たちに教えていることは「神のみことばに従いなさい」です。皆さん、そう思いませんか？私たちはすぐに私たちの考えや経験、人間的なものをもって、神のおことばよりもそれを優先しようとします。私たちに必要なことは、私たちが何かしようとするときに、それが自分の歩みであっても、人へのアドバイスであっても、私が取って行く選択においても、私が語ることばにおいても、私が考えることにおいても、それらを神のおことばに照らし合わせて、正しいかどうかを判断することです。あなたは「そんな難しいことを言われる…」と言いますか？私たちはみことばを知らなければいけないのです。もし、このように考えているけれど、この考え方が正しいのかどうか？となったときは、聖書がどのように教えているのかを見ることです。聖書をよく知っている人に、また、友人に聞いてみることです。「このように考えているけれど、これは果たして聖書的に正しいだろうか？」と。もし、私たちの集まりがこのようにそれが聖書に添ったものかどうか、聖書の教えに準じたものかどうかと考えながら一人ひとりが行動するなら、個人としても群れとしても変わることでしょう。そのように思いませんか？私たちが絶対に容認してはいけないことは、聖書の教えに拠らない「この世的な考え」です。

残念ながら、私たちは「この世的な」いろいろなものをもってこの信仰に入って来ました。ですから、私たちがすぐに持ち出すことは、聖書がこう言っているということではなく、私たちの経験がこう言っている、私はこのようにやって来たからと、そうではありませんか？旧約も新約も常に私たちに教え続けていることは**「心を尽くして主に拠り頼め。自分の悟りにたよるな。」**、自分に頼ることを止めて、主に頼って主の知恵、力、知恵をいただきながら歩んで行くことです。それが曲がった道を歩まないで正しい道を歩み続けて行くための秘訣であると聖書が教えているのです。もし、私たちが教会にあって兄弟姉妹として本当に愛をもって「〇〇さん、それは聖書の教えと違うのではありませんか？」と言えるような信頼関係があったらどうでしょう？間違いなく、私たちは信仰が成長して行くことでしょう。残念ながら、日本人は聖書のことばよりも私たちの文化や習慣を優先するところがあり、「日本人はそのようなことを言わない」とか、その人に面と向かって言わないで隠れた所で言うなど、これは罪ではありませんか？もし、私たちが聖書的に違うと思うのであれば「私はこのように思うからいっしょに聖書を調べてみましょう」と言うはずです。自分自身でも聖書を見ることができます。神のおことばに従うこと、それ以外に神の栄光を現わす道はありません。これ以外に神が祝してくれる道はありません。でも、このためには私たちは戦わなくてはいけません。なぜなら、私たちは「みことばに従う」というそのような特徴をもってこの世に生まれて来ていないからです。私たちはそれとは逆に、私の考え、私の思い、それらに従って生きる者として生まれて来ているのです。

その証拠は、私たちは生まれながらに、この神のみことばを聞いても、この救い主の話を聞いても、私たちはすぐにそれを喜んで受け入れようとしなかったことです。どちらかというと、私たちはその方に反対し、すでにローマ人への手紙の中で見て来たように、自分たちにはこの救い主による救いは必要ないとしていました。イエス・キリストなど私には必要ないと、そのような選択して来ました。真理など分かりませんでした。神が教えてくださっている聖書の真理のみことばも私たちは理解できませんで

した。このような私たちにどうして神の為しておられる計画が分かるでしょう？どうしてこの神のことが分かるでしょう？神が私たちのために為してくださった最善のみわざについて、この救いに関しても、私たちはその価値が分かっていなかったのです。だから、神のおことばにしっかり立つようにと教えるのです。そのおことばに立って、そのおことばに信頼を置いて行かなければいけない、そうでなければ、私たちの信仰はぐらつき、間違った方向に行ってしまうと言うのです。私たちはすぐに、サタンの偽りにだまされてしまうから、自分勝手に生きる人生に本当の喜びがあるような嘘にだまされてしまうからです。「私は信仰がそんなに強くないし不信仰だけれども、イエスさまによって救われているから大丈夫、それでいい。」と、そうして私たちはサタンの偽りにだまされてしまうのです。クリスチャンの皆さん、しっかりとみことばに立つことを学ぶことです。それが神が教えてくださっていることです。

多くの信仰の先輩たちが、今パウロが教えてくれたように、様々な患難の中にあって苦しみの中にあっても喜びを持って生きました。彼らの生き方は私たちに今学んで来たことと同じことを教えてくれています。それはいかなる患難があっても、いかなる問題があっても、いかなる迫害があっても、私たちは希望をもって生きて行くことが出来るということです。今パウロが教えてくれたことは他の人たちも教えています。ペテロが私たちに教えてくれていることを見ましょう。Ｉペテロ３：１４－１５**「いや、たとい義のために苦しむことがあるにしても、それは幸いなことです。彼らの脅かしを恐れたり、それによって心を動揺させたりしてはいけません。」**、義のために苦しむことがあっても、あなたが神に対して従順に生きて行こうとするときにいろいろな苦しみが出て来ても、それによって心を動揺させてはいけないと言います。**「:15 むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしていなさい。」**、ペテロの証を聞くといろいろな迫害があっても苦しみがあっても、その中にあって希望をもって生きることが出来ると教えているのです。だから、そのような苦しみ、問題の中で「どうして、あなたは希望をもって今日を生きているのですか？」と周りの人々は疑問に思って、あなたにその質問をするというのです。人々が希望について説明を求めるのは、その人々が希望をもって生きているからです。希望をもてないとき、喜べないとき、感謝できないときに喜び感謝、希望を持って生きていたからです。だから、彼らはその人に聞くと言うのです。「どうして？なぜ、あなたはそのように生きているの？」とすばらしい証が成されるのです。

そして、ペテロはどうすればいつもそのような希望をもって生きることが出来るのかを教えてくれています。Ｉペテロ１：６－７**「そういうわけで、あなたがたは大いに喜んでいます。いまは、しばらくの間、さまざまの試練の中で、悲しまなければならないのですが、:7 信仰の試練は、火を通して精練されてもなお朽ちて行く金よりも尊いのであって、イエス・キリストの現われのときに称賛と光栄と栄誉に至るものであることがわかります。」**、ペテロはここで信仰の試練や患難に対して次のことを知っていたと、三つのことを上げています。

◎ペテロが知っていたこと

１）試練の必要性　　６節

（１）試練は悲しいもの

６節**「さまざまの試練の中で、悲しまなければならないのですが、」**と、試練は非常に悲しいもの、試練には痛みが伴うと言うのです。外側から来る悲しみ痛みもあるでしょう。しかし、内側の悲しみがあります。なぜなら、あなたが主を喜ばせるために一生懸命生きて行くなら、世の中の人は歓迎してくれるどころか、あなたを非難します。そうすると私たちの心は痛みます。確かに、ペテロが言うように、試練はそれを経験するときに悲しみ、痛みがあります。ペテロはそのことを知っているのです。

（２）必ず、訪れるもの

同時に、試練は必ず訪れるものである、**「いまは、しばらくの間、」**と言います。ペテロ自身はそのような苦しみ、試練がやって来ることを知っていました。この地上にあって、私たちはそれらを経験し続けて行きます。

（３）様々な試練がある

しかも、その試練にはいろいろなものがある、**「さまざまの試練」**と言っています。いろいろな色をもった試練です。これらは多彩です。ですから、みな同じ試練を経験するのではなく、いろいろな異なった試練を私たち一人ひとりは経験するのです。

（４）私たちにとって必要なもの

もう一つ、実は、試練は私たちにとって必要なものであると言っています。**「悲しまなければならないのですが」**とありますが、この**「なければならない」**というのは「必要である」というそのようなことばが使われています。

つまり、ペテロが言っていることは、確かに、試練は悲しみ、痛みをもたらすものだが、それは必ずやって来るもので、しかも、いろいろな形でそれはやって来る、しかし、このような試練は私たちにと

って必要だということです。私たちはパウロの教えを見て来て、同じように、ペテロもそのように証していることを見ました。彼は実は、このよう苦痛、苦悩、試練というものは私たちに必要だから神が与えていると言うのです。神はあなたが何を学ばなければならないのかを知っておられるから、あなたのために特別にそのレッスンを用意してくれるのです。それはあなたが成長して行くために、あなたが学ばなければいけないことなのです。そのことをペテロはここで教えるのです。

２）試練の目的　　７ａ節

ペテロは試練は必ずあるものだとその必要性を語った後に、７節ではその「試練の目的」を述べています。**「信仰の試練は、火を通して精練されてもなお朽ちて行く金よりも尊いのであって、」**と、すでに私たちがパウロの教えの中で見て来たように、実は、この試練は私たちの信仰を成長させるために神が与えてくださったもの、それが試練の目的であるとペテロも同じように言っています。精錬のことです、不純物を除いて行くことです。そうして神は私たちがキリスト者としてますます神が喜んでくださる者に変えて行こうとされるのです。

３）試練の報い　　７ｂ節

三つ目に、ペテロは「試練の報い」について教えています。そのような試練を通してあなたが神に忠実に歩んで行くなら、そこに神からの報いがあると言います。7節の後半に**「イエス・キリストの現われのときに称賛と光栄と栄誉に至るもの」**と言っています。**「称賛」**＝私たちが主にお会いするときに主が「よくやった」と誉めてくださることです。「よく頑張った、よくやった良き忠実なしもべだった」と、そのように私たちの主が誉めてくださるのです。**「光栄」**＝信者がその栄光の中に招かれること、主のもとに招き入れられることです。そして、**「栄誉」**＝これは特別な働きをした兵士に与えられる勲章のようなものです。忠実な者に与えられる勲章なのです。私たちがこの地上の人生を終えて主イエス・キリストにお会いしたときに、私たちはその主から誉められ、しかも、栄光の中に招き入れられ、そして、私たちのその忠実な働きに対して、神から栄誉をいただくというのです。それが約束なのです。ペテロはそのように信じて、そのように生きていたのです。

ですから、彼は同じことをこの手紙の４章でも教えるのです。４：１２－１３**「愛する者たち。あなたがたを試みるためにあなたがたの間に燃えさかる火の試練を、何か思いがけないことが起こったかのように驚き怪しむことなく、:13 むしろ、キリストの苦しみにあずかれるのですから、喜んでいなさい。それは、キリストの栄光が現われるときにも、喜びおどる者となるためです。」**。**「あなたがたを試みるために…燃えさかる火の試練を、」**と、ペテロはそこに目的があることを知っていました。**「あなたがたを試みるため」**、あなたがたがますます成長して行くためだと言います。しかも、そのような試練は偶然に起こったのではない、あなたのために神が与えてくれたと言うのです。ですから、**「何か思いがけないことが起こったかのように驚き怪しむことなく、」**と、神が完全な計画をあなたに与えてくださっている、そのことを覚えることが必要だと言います。苦しみには目的があって、苦しみは主から与えられたものである、また、それは特権だと言います。１３節に**「キリストの苦しみにあずかれるのですから、喜んでいなさい。」**とあります。ペテロがこのようなことを言ったのは、彼自身がイエスとどれ程親密な関係にあるかということを悟っていたからです。キリストの苦しみを自分も分かち合っている、私はキリストと一つだから、キリストが苦しまれたように私も苦しみを経験すると言うのです。世の中がイエスに対してどのような仕打ちをしたのか私たちは知っています。そして、世の中はイエス・キリストの栄光を現わしているあなた自身にも同じことをします。この世はイエスを憎むのです。だから、イエスを愛しているあなたも同じように憎まれるのです。ペテロはその苦しみに対して、これはすばらしい特権である、私はイエスと一つだからイエスが経験された様々な苦しみを、私も同じように味わわせていただいていると言うのです。

そして、最後にこのように言いました。**「キリストの栄光が現われるときにも、喜びおどる者となるためです。」**と、再び、神からの報いのことを言っています。ここにはぜひ気づいておくべきことがあります。それは**「キリストの栄光が現われるときにも」**と、つまり、イエスにお会いしたときに、主の前で私たちが大いに喜ぶと言っているのですが、ペテロはそれだけを言ったのではないのです。その喜びとともに、私たちは今、今日このときも同じように喜ぶことが出来ると言うのです。１３節に**「むしろ、キリストの苦しみにあずかれるのですから、喜んでいなさい。」**とありますが、これは現在形です。日々の生活におけることです。そして、**「喜びおどる者となる」**とは、私たちがキリストの再臨、イエスにお会いするときに大いに喜ぶことが出来るということです。つまり、ペテロはイエスにお会いするそのすばらしい祝福を思って、そのときに喜ぶだけではなく、今、このときも私は喜びをもって生きることが出来ると言っているのです。なぜ、このペテロやパウロという信仰者たちは私たちが経験したことのない迫害の中でも喜びをもって生き続けることが出来たのでしょう？患難の目的をしっかり覚えていたからです。私たちはいつもこのときにつまずきます。「神さま、どうして私をこんな苦しい目に会わせるのですか？なぜ、このような辛いことを私は経験しなければいけないのですか？なぜ、こんなにもしんどいことを私は経験

し続けるのですか？」と。私たちがしているこのようなことは、神を疑っていることです。
　皆さん、考えて見てください！あのパウロが信じていた主、ペテロが信じていた主と、あなたが信じている主は違う主でしょうか？私たちは同じ主を信じているはずです。ヤコブはこのようなことを教えています。ヤコブ１：１７**「すべての良い贈り物、また、すべての完全な賜物は上から来るのであって、光を造られた父から下るのです。父には移り変わりや、移り行く影はありません。」**、ヤコブは彼自身が信じていた神について教えています。どのような神でしょうか？（１）**神は正しい方**＝「私の神は正しい神である。**すべての良い贈り物、すべての完全な賜物**を与えてくださる。」と言います。つまり、神がくださるものはすべて良いものであり、すべて完全なものだと言っているのです。ですから、私たちはその神に信頼を置いてその神のみこころを求めようとするのです。なぜなら、神は私たちに良いもの、完全なものをくださるからです。私たちの問題は、忍耐がないゆえに、自分がベストだと思うもの、最善であり完全だと思うものを自分で選択しようとすることです。だから、忍耐がいるのです。私たちは神の約束を信じて歩み続けて行かなければいけないのです。なぜなら、ヤコブが言ったように私たちの神は正しい神だからです。この方は常に良いもの、完全なものを与えることが出来る、言い方を変えるなら、それ以外のものを与えることが出来ないのです。けれども、私たちは待てないのです。自分で自分の思う選択をするのです。神を信頼できないのです。**（２）神は真実な方＝「父には移り変わりや、移り行く影はありません。」**と神は不変である、決して変わらないと言っています。でも、私たち人間は変わって行くことが必要です。不完全だからです。神は完全であるゆえに変わる必要がない、その約束は変わらないのです。
　覚えておられますか。ヘブル１３：８に**「イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも、同じです。」**とあります。神は変わらないのです。そして、私たちが覚えなければいけないことは、このような過去の勇者たちはこの神を信頼し、どんなときにも神の約束に立って歩み続けたということです。それゆえ、神は彼らを大いに祝されたのです。天において豊かな祝福をいただくということだけでなく、地上においても神は彼らを用いて神の栄光を現わされたのです。
　そのような生き方をしたいと思いませんか？残された本当に短い人生を神の栄光を現わすために生きる、そのような人生を過ごすことが出来るのです。これは今からでもできることです。でも、そのために必要なことは、このパウロが教え続けてくれているように、様々な患難があるけれども、その患難の中にあってしっかり主を見上げて、忍耐をもって、神への信頼をもって歩み続けて行くことです。その信仰によってあなたはこの成長の過程をたどって変えられて行き、あなたはますます主の栄光を現わす者になるのです。ですから、「神さま、なぜ、私のために何もしてくれないのですか？」と、そのような疑いは捨てなければいけません。なぜなら、それは事実ではないからです。神の約束は「神はあなたのために常に最善を為してくれる」ということです。「神さまはもう私に関心を払っておられない、私のことなどどうでもいいのではないか？」と、もし、そのように思っておられるなら神の約束を思い出してください。聖書はそのようには教えていないからです。神はあなたを愛して、あなたに必要なものを与え続けてくださるお方です。私たちがするべきことは私たちの主がどのような主であるかを思い出すことです。詩篇１１９：６７のみことばを見てください。**「苦しみに会う前には、私はあやまちを犯しました。しかし今は、あなたのことばを守ります。」**、主はあなたの最善のためにあなたが成長するために、あなたがますます神の栄光を現わすために様々な患難を与えてくださると、ぜひ、このことを覚えてください。
　ゴスペルソングを書く作詞家、作曲家で、そして、実際に歌うアンドレ・クローチという人がいます。彼はこのようなゴスペルの詩を書きました。私もよくその曲を聞いて憶えました。「私は多くの涙と悲しみを経験したことがある。私は明日への疑問をもったこともある。何が正しくて、何が間違っているのか分からないときもあった。しかし、どのような状況でも神が慰めを与えてくださった。私への試練はただ私を強くするために訪れるのである。すべてを通し、すべてを通して、私はイエスに信頼することを学んだ。私は神に信頼することを学んだ。すべてを通して私は神のみことばに信頼することを学んだ。私は人生の山を、また谷を神に感謝します。私は嵐を乗り越えさせてくださった神に感謝します。それはもし、私に問題がなければ私は神がそれらを解決できることを知ることもなかっただろう。私は神のみことばへの信仰が為せるみわざを知ることもなかったであろう。」と。
　神は計画をもってあなたを鍛えてくださっているのです。私たちに出来ることは、この神の約束を信じ、この神を信頼して希望をもって前に進むことです。この神の約束に希望を置いて今日を生きることです。そして「神さま、どうぞ私を通してあなたの栄光を現わしてください。」と、そのように願いながら、主はあなたを用いてくださると確信できますか？あなたを使って神が栄光を現わしてくださると確信することができますか？主はあなたを使ってくださるのです。